

生後 7 ヶ月齢から肥育を行う 黒毛和種去勢牛の早期肥育技術

黒毛和種の平均出荷月齢は 30 ヶ月齢前後であり、肥育期間の長期化による飼料費等の増加および出荷の回転率の低下が農家経営を圧迫しています。一方で、肉質肉量兼備の優秀な種雄牛が造成されており、肉質および肉量を落とさずに、肥育期間を短縮した早期肥育技術の確立が望まれます。そこで、長崎県畜産試験場では、生後 7 ヶ月齢から生後 24 ヶ月齢までの黒毛和種の早期肥育技術および肥育前期における濃厚飼料給与量の検討を行いました。

☆ 技術の概要

1. 肥育前期 (7~12 ヶ月齢) に、濃厚飼料の給与量を 1 日当たりの増体量 (DG) 1.0kg に必要な TDN の 60% に制限した前期濃厚飼料少給区 (少給区、5 頭) と DG1.0kg に必要な TDN の 80% に制限した前期濃厚飼料多給区 (多給区、5 頭) の 2 区を設定し、24 ヶ月齢まで肥育試験を行いました。(表 1)。
2. 少給区が多給区に比べ、粗飼料の摂取量は肥育開始から生後 15 ヶ月齢頃まで多い傾向にありました。また、生後 7 ヶ月齢 (肥育開始体重 233kg) から 24 ヶ月齢まで肥育を行うと、DG は 0.9kg 以上となり、試験終了体重 700kg 以上が可能でした (表 2)。
3. 少給区では、枝肉等級 4 級以上が 80% の良好な枝肉成績が得られ、肥育前期に濃厚飼料を DG1.0kg に必要な TDN の 60% に制限しても、良好な枝肉生産が可能であることが示されました。(表 3)。

表 1. 飼料給与法

飼料	試験区	前期	後期
		7~12 ヶ月齢 (1~24 週齢)	13~24 ヶ月齢 (25~74 週齢)
濃厚飼料	少給区	DG1.0kg に必要な TDN 要求量の 60% 制限給与	自家配合飼料 不断給餌
	多給区	DG1.0kg に必要な TDN 要求量の 80% 制限給与	
粗飼料	少給区	イタリアン乾草 不断給餌	稲ワラ 不断給餌
	多給区		

表 2. 体重の推移 (単位 : kg)

	少給区	多給区
試験開始	233.0	235.6
前期終了時	411.0	432.2
DG (kg/日)	0.98	1.08
試験終了時	729.4	713.0
DG (kg/日)	0.94	0.83
全期間の DG (kg/日)	0.94	0.91

- 1) 市販配合肥育前期用飼料 : TDN81.3%、CP16.6%
- 2) 自家配合飼料 : TDN83.0%、CP16.8%
- 3) ビタミン A 製剤を 50 週齢以降 2 週間毎に 75,000IU/頭投与する。

表 3. 枝肉成績

	枝肉重量 (kg)	ロース芯 面積 (cm ²)	バラ厚 (cm)	皮下脂肪 厚 (cm)	歩留 基準値 (%)	きめ締まり 等級	BMS No
少給区	446.8	48.6	7.4	3.3	72.2	3.8	4.6
多給区	437.5	44.4	7.6	3.6	71.5	3.4	4.0

* 枝肉等級 少給区 (A-4:4 頭, B-2: 1 頭)、多給区 (B-4:1 頭, A-3:2 頭, B-3: 1 頭, B-2:1 頭)

☆ 活用面での留意点

黒毛和種早期肥育における飼養管理体系に活用できます。増体能力に優れた種雄牛の産子を用い、肥育前期は良質な粗飼料を不断給餌する必要があります。詳細は、長崎県畜産試験場 (TEL:0957-68-1135) にお問い合わせください。 (農林公庫 技術参与 田辺 忍)